

令和元年度(2019年度) 第2回 吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議 議事録

- 1 開催日時 : 令和2年(2020年)2月7日(火) 午前10時00分～11時30分
- 2 会 場 : 本庁高層棟 特別会議室
- 3 開催内容 : 令和元年度 第2回 吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議 次第にもとづき開催
- 4 配付資料 : 別添のとおり
- 5 参加者 : 22名
前田委員長・落委員・高島委員・中西委員・堀委員・林委員・岡本委員・山本委員
海部委員・堀委員・植村委員・佐々木委員・松尾委員・小松委員・藤川委員
矢野委員・大中委員・後藤委員・柏渕委員・土屋委員・川崎委員・元田委員
事務局出席者(2名)
小川 壽幸(青少年室 主幹)
澤田 美純(青少年室 主査)
浦田 ひろみ(青少年室 係員)

6 議事録

事務局

皆様おはようございます。本日は御多用のところ、吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議に御出席いただきありがとうございます。本日は吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議設置要領に基づき、会議を進めて参ります。

事務局

皆様、改めましておはようございます。本日はお寒い中、吹田市新・放課後子ども総合プラン運営会議にお集まりいただきましてありがとうございます。今年度も特に大きな問題もなく太陽の広場が開催できておりますのは、地域、学校、留守家庭児童育成室(以下「育成室」)の指導員の皆様方の御協力の賜物であると思っております。ありがとうございます。

私どもの管理でもあります滋賀県今津の、少年自然の家ではここ数日の寒波で雪が30cm積もり、一昨日と昨日利用した学校では雪遊びを楽しんでいたと聞いております。文部科学省は小さいときに子供たちにさまざまな体験活動が大事だと言っております。

少年自然の家や、学校での太陽の広場、育成室の取り組みが子供たちにとって、いちばん身近で大切な活動の場だと思っております。そこを充実させていくにはどうすれば良いかということを皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。本日はいろいろ御意見を聞かせていただければありがたいです。本日もよろしく願いいたします。

事務局

それでは議題に移らせていただきます。ここからは設置要領第5条により委員長が司会として議題を進めてまいります。

委員長

それでは、設置要領第2条に基づいて話を進めていきます。まずは令和元年度12月末まで実施した事業について報告等を事務局よりお願いします。

委員L

令和元年度こどもプラザ事業 太陽の広場、地域の学校実施状況を御覧ください。今年度12月末までの実施状況をお示しております。

昨年度は不審者事案の発生で実施できなかった千里たけみ、桃山台、津雲台小学校につきましてはフレンドさんや学校の協力を得まして月に1回、事前申し込み制とし保護者や保護者に準ずる方によるお迎えを必須要件として実施いたしました。子供たちも喜んで参加してくれています。その結果、今年度は同じ時期の昨年度の実施回数と比較しても1,108回から1,250回と回数は増加しています。しかし、一方で今年度は雷で中止になる広場もあり、昨年度の地震・台風・不審者に加えて様々なリスクが高まっているのを感じています。

また、今年度は骨折など、大きなけがについて育成室の指導員さんや学校の協力を得て対応した事例も何件かありました。これからも様々なリスクに備え、学校、フレンド、育成室、青少年室の連携をより一層進めていくことが必要だと実感しています。今後ともよろしく願いいたします。

委員Q

いつも留守家庭児童育成室の運営に御協力いただきありがとうございます。育成室関連につきまして、現況と進捗状況を御報告させていただきます。

現在来年度の入室申請を受け付けております。受付児童数は、昨年度の同時期と比べまして300人以上増加しておりまして、昨今の小学生の児童数の増加、また育成室へのニーズの増大がうかがえる状態となっております。入室希望の児童が増加しますと、新たな教室と指導員の確保が必要になり、学級運営をするには1教室に最低1人の経験を持った指導員が必要になりますが、現状その人材の確保が困難な状況です。市報やホームページへの情報掲載や大学訪問、ハローワークでの説明会など、積極的な採用活動も行っておりますが、解決するには至っておりません。保育所不足が全国的に深刻となっている中、十分な指導員が確保できないため、来年度も昨年を引き続き、年度当初いくつかの育成室で待機児童が発生する見込みとなっております。

また、新しく指導員を採用してもなかなか定着していないことが課題となっておりますが、採用後しばらくして面談を行い、働き続けていく上での不安や課題がないか等の聞き取りを行って離職防止に努めているところでございます。

教室確保につきましては、教育政策室等関係部局と連携しながら小学校にお願いして確保に努めているところでございます。

委員O

育成室の運営委託状況につきまして御報告させていただきます。保育の担い手を確保するために全36育成室の三分の一を目途に民間委託を進めております。今年度は、吹田東、山手、高野台の3育成室について公募を行い、吹田東育成室に4事業者、山手、高野台育成室にそれぞれ1事業者の応募がありました。令和元年11月30日に一次審査、令和元年12月8日に二次審査を行い、最終的には1か所、山手育成室が決定しました。委託事業者の株式会社セリオにつきましては、現在佐井寺育成室の他、吹田市内で小規模保育事業を運営しております。来年度の委託開始に向け、スムーズな学級運営

ができるよう、今月から引継ぎ保育を行っております。

委員P

続きまして、育成室で起きました事故の発生件数について御報告いたします。育成室入室児童数は年々増加しておりますが、事故発生件数は毎年200件前後で推移しております。今年度はけがに対応にかかるマニュアルを改正し、どの育成室指導員でも適切に対応できるよう、けが対応について全育成室で周知しております。毎日の生活の場でありますので、けがを全くなくすことは難しいかもしれませんが、子供たちの安全面を考え保育に努めたいと考えております。

委員N

最後に受け入れ状況でございますが、平成29年度から4年生まで拡大しまして、その次に5、6年まで拡大する予定でしたが、利用のニーズが非常に高まっておりまして、我々の想像をかなり上回る形となっております。来年度の申請数も4,000件を超えまして、運営に必要な施設や指導員の確保に至っていない状況であることから、当分の間4年生までの保育に専念、制限する必要があると判断しております。また、児童推計を見ますと今後数年間は児童が増加していく見込みであることから、安定した育成室運営を続けていくには抜本的な改革が必要であると考えております。

委員P

私の方からひとつ付け加えさせていただきます。資料はございませんが育成室の取り組みについては、各学校で太陽の広場と連携させていただいております。各育成室での年1回の学童祭りについては、太陽の広場の子供たちにお客さんになっていただき、模擬店などを自分たちで運営することで、子供たちの成長をはぐくむ体験の一つとなっております。太陽の広場の皆さんにも感謝申し上げたいと思います。

また、避難訓練についても、多くの学校で放課後の緊急時の対応について連携して開催しています。これまで実施できていなかった育成室でも今年度訓練を実施できたようで、課題も含めましていろいろな学びがあったと報告を受けております。ここ数年、地震や台風など自然災害が多く、そのことにより訓練に対して実感を持って取り組んでいると感じております。今後とも太陽の広場と連携し、緊急時の訓練を続けていただければありがたいと考えております。

本日は皆様のさまざまな意見をお伺いできればと思っております。放課後子ども育成課からは以上となります。

委員長

それでは検討課題に入ります。新・放課後子ども総合プランとして国の定めている方針に基づいて動いておりますが、一貫しているのは両事業が連携しているということです。皆さんも御存知のとおり育成室は親が就労している子供の保育、太陽の広場は誰でも自由に参加できる見守りの場というスタンスで、同じ学校の中で実施しております。授業中は一緒に勉強しているのに、放課後には別の制度だからということで別々に遊ぶというのは、子供たちにとってプラスではない、同じ学校の中で安心安全な場所を一緒に提供しようと進められてきています。吹田市のように全小学校でこのような取り組みが進んでいるところはまだまだ少なく、例えば育成室の実施については校外で行っているところもあります。吹田市は一体型の運営を行っており、今年度は「育成室、学校、地域(フレンド)、青少年室との『連携』の推進」をテーマ

に話をさせていただいています。避難訓練、連携会議、行事など子供たちにとってはプラスになっていると思いますが、今年度第1回目から連携が進んだ事例や、連携するうえで見えてきた課題などをお話していけたらと思います。どなたからでも結構ですので御意見をお願いします。それではIさんお願いします。

委員I

毎年それぞれ学校と育成室、太陽の広場と連携させていただいておりますが、連絡会議で学校、育成室、太陽の広場のフレンドが集まり行事や子供たちの様子、地域の様子も含めてざくばらんに話をしています。学童祭りに太陽の広場から参加させてもらったり、合同避難訓練を合同で実施いただいたり、その日程調整や運動場や教室を使っているので学校の決まりなどを話したり、それがそぐわなければどうするかを一緒に検討させていただいています。特に実施しているうえで、子供たちの様子、健康状態も含め、今の時期なら学校でのインフルエンザやノロウイルスなど、学校の現状を聞かせていただくことは大事だと思っております。

また、学校全体では学年、クラス、育成室の子供たちの様子も皆さんで共有させていただき、例えば今、この様ないたづらが続いているとか、様子が少し気にかかると感じたり、支援が必要な子供との関わり方など聞かせていただくことで、こういうところはもっとしっかり見なければならぬところだなとか、どのような配慮をしなければならぬのだということがわかり、それぞれの立場での役割が確認できたり、子供の見守りにとても役に立っています。

注意深く見守っていくことで、逆にそこから得られた情報を学校や育成室に返していくということも行われています。例えば、授業中や休み時間に喧嘩をして、それを引きずったまま太陽の広場や育成室に来ている子供がいて、担任の先生から見守ってくださいという引継ぎがあると、喧嘩していたけれどもこういう話をして仲直りさせましたよという形で返したりしています。また、担任の先生や学校に言えない悩みを私やフレンドさんに話をしてくれることもあり、学校にはこのような話をしている子供がいましたよと対応したことも何件かありました。大事な連携ができています。

同じ学校の子供が同じ場所で活動しているので、太陽の広場のフレンドも育成室の指導員も一緒に見守っていかなければならないと思っております。話をすることで仲良くなっていくということがあると感じました。

委員長

ありがとうございました。情報がいろいろな角度から見えて、それが共有できたひとつの成果だと思います。続いてKさんお願いします。

委員K

放課後の運動場で育成室と太陽の広場の子供たちが、ドッジボールやサッカー、バスケットなどの球技や鬼ごっこをしたり、遊具や一輪車で遊んだりしていますが、危険な遊びや、けがにつながる遊びに対して、連絡会議の中で学校のルールを元にルール確認しています。例えば、ジャングルジムの上では鬼ごっこやボール遊びをしない、人数の多い学校ではボールを蹴らない、一定方向のゴールにボールを投げる、などそれぞれの環境に見合った方法をとっています。

自由にボールを使うとボールが顔に当たったりすることもあるので、エリアを分けて遊ばせることもあります。そのほか、縄跳びを遊具にくくって遊ばない、フード付きのジャンパーを腰や首に巻いて遊ぶと遊具

に引っかけた事故に繋がるので注意するなど、状況にあわせていろいろなルールがあります。子供たちは授業が終わると緊張が緩みルールを守らず遊んでいて、それがけがに繋がることもあります。特に高学年はそういう傾向にあります。育成室と太陽の広場の子供たちに関わる全ての大人は、けがやトラブルを防ぐためにも、ルールを何度も確認し全員に徹底して、けがのない有意義な放課後にしたいと思っています。

委員長

ありがとうございます。Jさんお願いします。

委員J

フレンドさんの悩みとして、まず、けがの時にどうしたらいいのか、次にいろいろな子供がいてなかなか対応が難しい、更にけんかをした時にどのような声かけをしたら良いのかということがよく出てきます。けがの対応につきましては、養護教諭の先生が可能な限り対応くださる学校もあります。運動場で一緒に遊んでいるので、何かあった時には指導員さんやフレンドさんなど気づいた方が子供のそばに行って、どういう状況なのかお互いに情報交換をしています。私が行っている学校の事例ですが、子供がガラス窓に腕を突っ込む事故が起きました。この時に一番近くにおられたのが指導員さんで、ガラスに突っ込んだ手を抜かないように押さえ、すぐに太陽の広場に連絡をくださいました。病院に運ぶため、保護者に連絡しましたがなかなか連絡がつかなかったので学校の管理職の先生が、お祖母ちゃんに連絡していただきすぐに来てもらえました。また、受診する医療機関にも学校が連絡をとっていただき、搬送することができました。このように、お互いに気づいたところが素早く、けがに対応することがとても大事だと思います。

それから、子供のトラブル対応の例を申しますと、急に注意すると暴れたり、逃げ出す子供さんもおられ、そのような場合には、フレンドさんが追いかけても追いつくことができません。育成室のお子さんでしたが、太陽の広場にも遊びに来る子供でしたので、どのようにしたら良いか学校も含めて連絡会議で話し合いました。急に大きな声を出すとダメなので、まずそばに行って抱きかかえ、座って落ち着いてから話を始めると、ある程度、指導が入るというお子さんでした。このような場合には対応方法を一元化して、育成室の子供であっても太陽の広場や学校であっても同じような対応をしていく、そのような取り組みをしている学校もあります。

また、今年度は、急な雷の発生で帰れなくなるということがありました。この時には、学校のメールシステムを使わせていただき、「終了時間が来ても雷が鳴っていたらまだ帰しません。必要があればお迎えに来てください。」と発信をして保護者への周知を図ったものもあります。学校メールにはフレンドさんも登録していただいているので、「学級閉鎖になった」、「不審者が出た」という情報も直接確認することができ、ありがたいと思っております。ただ、それぞれの地域や学校の様子が違いますので、連携がうまくいつている部分や、うまくいつていない部分については、4者(学校・地域・育成室・青少年室)で開催しているフレンド連絡会議で情報交換を行い、できるところは同じようにしたり、困っていることについては他の地域ではどうしているのかをたずねたりするなどの交流を図っています。常に学校、地域、育成室、青少年室が連携を深めながら、子供が安心して安全に活動できるように努力しております。以上です。

委員長

3人のブロックアドバイザーから、普段学校を巡回して気づいた点について発表していただきました。

今度は視点を変えていただき、地域の方から見て連携がどのように見えているかお伺いしたいのです

が、子供が多い地域で、太陽の広場にもたくさん子供たちが参加している東山田のGさんから御意見をお伺いできたらと思います。

委員 G

東山田地区でも2学期に合同で避難訓練をしたり、のびのびカーニバルには育成室と同じ学年の1年生から4年生まで子供たちを招待していただき、私たちも見守りやお手伝いをさせていただいて、子供たちはすごく楽しませてもらっています。

また、避難訓練も事前に育成室の方とお話しをして、当日は学校の協力のもと実施させていただいています。うちの学校は太陽の広場と育成室とを合わせると人数がとて多くなってしまうので、活動プログラムなど特別に何かをするということは、なかなか難しい部分はあるのですが、将棋や紙芝居などは育成室の子供さんにも参加できるよと声掛けをしてみたところ、参加者が増えてきています。それから、育成室が大学のサークルの方を呼ばれるときには、フレンドも見守りながら、なるべく円滑に運動場の半分は使ってもらえるように調整しています。

普段のことですが、以前よりも育成室の子供たちがフレンドにも声をかけてくれるようになりました。遊び道具もお互いで共有し、片付けに関してもフレンドも育成室の先生も両方の子供たちに片付けを促す声掛けをしていこうという話をしました。

それから、学期に1回、学校、育成室の先生、フレンドと青少年室でお話しさせていただいているのですが、これはすごく有効で、6月のこの会議の場でお話させていただいたことですが、育成室の先生が短期間が変わるといってお話をしましたが、最近そういうことはなく、太陽の広場にも時間を合わせてくださってすごく良い形で進んでおります。以上です。

委員長

ありがとうございます。Gさんの地域は1回あたりの子供の参加人数が一番多い地域となっています。続きまして東佐井寺小学校、Hさんからお願いします。

委員H

東佐井寺は毎日開催しております。フレンドさんの協力者が現在18名おられ、ローテーションの表を作りまして、毎月のフレンド会議で調整しております。毎月の学校、育成室、青少年室との連絡会議とフレンド会議を有効的に利用しまして、交流を持たせていただいております。

子供たちは授業から解放されているいろいろな意味で発散し、甘えてくる子供さんやずっとおしゃべりをしている子供、ボール遊びをして思いきり体を動かしている子供もいて、けがのないように見守ることが一番だと考えております。

また、学年を超えてひとつの教室で宿題をしております。高学年の子が1年生や2年生の子供を見てあげたり、と微笑ましい交流が行われています。それから、フレンドさんが高齢化しておりまして、半数以上が60歳以上で、若いフレンドさんが入ってきているけれどもその数は少ない中、暑さ、寒さによる体調が心配です。暑いときは夏時間として少し短縮して早く終わるようにしているのですが、寒さもここ2、3日は急に冷え込みが激しくなる中、頑張らせていただいております。

子供たちは基本的には外で遊んでいます。ひがさいっこステーションといいましておもちゃづくりや手芸、クラフトなどの活動が月1回あり、多くの教室を使用して活動するひがさいっこステーションが雨の日と重なると教室の確保が難しく、太陽の広場も教室を貸してもらっても部屋が分散してしまうため、フレ

ンドさんの見守りが難しくなると感じております。

また、忘れ物で名前を記入していないものが多く、特に水筒は名前がある場合は下足箱に入れてあげるので、名前がない場合はどうしようということも多々ありました。

毎日開催しているので雨の日も多いですが、地域交流室を使わせていただいてゲームや折り紙をして時間を過ごしていき、とてもありがたいことだと感じています。とにかくけがのないように見守っていきたいと思います。以上です。

委員長

ありがとうございます。太陽の広場は36小学校全てで取り組まれており、不審者の関係で回数が減っているところもあります。太陽の広場は、36校で36通りのやり方があり、児童数や場所の確保の問題が各校で違っております。回数の多い少ないではなくそれぞれの地域で工夫されてやっていたというのが実情です。その中からふたつの地域の方に発表いただきました。連携がうまくできているというお話だったのですが、うまくいっていないところなど、課題があればLさんお願いいたします。

委員L

先日フレンド交流会を行い、グループに分かれて交流していただいたのですが、概ね参加して下さったところにつきましては、非常に連携がうまくいって大きな問題はない、連携することによって子供たちにとってプラスの面がたくさんあるというお話がありました。ただ、状況によって、なかなか連携会議や合同の避難訓練ができていない学校があることも事実です。これは時間をかけてお話をさせていただきながら実現する方向に向けて進めて参りたいと考えています。

また、先ほどPさんからありましたように、何年かかけて今年ようやく合同避難訓練ができたというところもあります。活動場所が離れているという物理的な要因だけではなく、こちらで調整が取れなくてできていないところにつきましては、次年度以降、青少年室から声をかけながら、36小学校全てで連携会議や避難訓練をできるようにしていきたいと思っております。以上です。

事務局

今のお話につきまして国の連携の基準が当初とかなり変わってきていまして、会議を持つようにということがありましたが、運動場で太陽の広場のフレンドさんと育成室の指導員さんが日々のことを打ち合わせしていることも立派な連携です、という考え方になっています。

吹田市は学校の管理職の方にも出席していただき、指導員やフレンドさん、青少年室の4者で会議をしています。そういうところはまだまだ珍しく、進んでいます。大阪府の研修などでも吹田市の状況の報告を依頼されるくらい進んでおりますので、これが36校で実現出来たらありがたいと思っております。今後とも御協力をお願いいたします。

委員長

事務局から、課題もあるけれども進んでいるという話がありましたが、先ほどGさんからは指導員さんからも声をかけてくださることで連携が進んでいると聞きました。では、次に育成室の指導員の方にもお話を伺えたらと思います。

委員B

吹一タイムという授業が早く終わる時に太陽の広場が開催されることが多いのですが、学校が早く終わるということで子供たちはすごくテンションが高く、低学年も高学年も残って遊んでいるなあという印象があります。育成室の子供は育成室の生活の時間があるのでずっと一緒に遊んでいるわけではなく、太陽の広場に全てを合わせるわけでもないのですが、たくさん遊べるようにという配慮はしております。また、太陽の広場に来てくださっているフレンドさんたちも、育成室の子供が近寄っていても全身で受け止め、受け入れてくださっているのです、私たちも太陽の広場の子供たちに声をかけて連携させていただけたらと思っています。

委員長

地域で子供たちに、どうして太陽の広場に来ているのかと聞くと、育成室の子供と遊べるからという答えが返ってきたという話をよく聞きます。子供たちは友達同士で繋がっているようなので、その辺が進んでいけば非常にいいなと思っています。Dさんいかがでしょうか。

委員D

先ほどからお話にあります、私も連絡会議が大事だと思っておりまして、育成室の子供の様子もそうですが普段の学校での子供の様子と、フレンドさんがどのように子供を受け止めておられるかを聞かせていただくことで、情報共有しながら対応を一緒に考えることができます。私たちは育成室の子供たちについては知っていますが、太陽の広場に来る子供たちとは週に1回しか会わないので、すごく状況がわかるわけではありません。その子供たちの対応についてもすごく参考にさせていただくことができます。片山小学校では毎月連絡会議をされていますが、時間の都合上、育成室からは2か月に1回しか参加できませんが、できる限りの情報共有をさせてもらっています。

指導員としてわかる視点としては毎日育成室の子供たちは運動場で過ごしているので、季節ごとにその時の危険な状況や夏前には給水の指導を行うことで、暑くなった頃には身につくような取り組みをしているなどということの情報共有が大切だと思っています。

ボランティアで来られている方であっても、子供を目の前にした時には、ある一定の対応の質というのは、意識しておかないといけないかなと思います。指導員は研修をして子供の対応や発達について勉強させてもらっているのです、そのようなことを連絡会議の中で地域に共有出来たらと考えています。

今年、保護者の御要望や意識が子供のトラブルに対して敏感になられていて、太陽の広場の時のトラブルでも今までと違った対応を求められるケースがありました。今まででしたら子供たちが遊んでいるその場で解決して終わるような対応で済んでいたことが、後日学校も含めて保護者の対応をお願いするケースが出てきたことから、学校には大変御協力いただきました。もしかしたら、今後そのようなことがしばらく続くかもしれないと思っています。毎日開催されている東佐井寺では、指導員とフレンドさんが今日はこんなことに注意しましょうと話ができますが、月1回、週1回の開催の場合はフレンドさんに翌日にお会いできないのでトラブルの対応を含め、やはり学校の御協力が不可欠になるということを御理解いただけると、その後の対応も含めて保護者の方にも理解をいただけるように感じています。

目の前にいる子供に対して、迅速にいちばん近くにいる大人が対応して、その後、情報を共有することが基本的な対応の方法として大事だと思っています。

育成室の中には大人数の中で遊ぶのが苦手な子供もいるので、太陽の広場がある日はあえて部屋で過ごす子供もいます。育成室の指導員としては、一人一人の居場所を大事にしたいと思っていますので、誰かと遊ぶことが嫌というわけではなく、子供なりの事情があるということを御理解いただけたらと思っ

ています。

委員長

ありがとうございます。いろいろ御意見いただきましたが、子供たちも自由に遊べるのが良いと思いますので、実際、このような方向で行っていただいていると思います。大人の質につきましては、育成室の方は資格を持った方が担っておられて、研修も受けておられるのですね。

委員D

日常的な研修はありますが、研修を受けていない方もおり、その場合はその人たちに私たちが直接伝えるようにしています。

委員長

太陽の広場でも、フレンドさんから子供たちの対応について聞かれることも多く、青少年指導者講習会（以下講習会）をしているので、事務局から説明してもらいたいと思います。

事務局

青少年指導者講習会という形で、太陽の広場のフレンドさんと地域の中で子供に関わる活動をしてくださっている方を対象に、年6回講習会を開催しております。育成室の先生にも周知させていただき、講習会に参加してもらっています。毎回取り上げるテーマはけがの対応や救急法、気になる子供への対応などです。参加できないフレンドさんもおられますので、参加いただいた方には連絡会議で内容を紹介していただくようにしています。

委員L

今日の資料でお配りさせていただいております「北東西南」にも講習会の報告を掲載しております。毎年このように開催させていただいております。安全管理についてや子供との関わり方などについてはシリーズのような形でお話いただいている講師もおられ、フレンドさんにも日常の対応を知っていただく場ともなっております。

事務局

講習会ですが、育成室の指導員の方に加えて児童センター、児童会館の厚生員の方にもお声掛けさせていただいております。子供に関わる皆さんが同じ視点で接することが大切ではないかと思い、できるだけ御要望や時代に沿ったテーマを取り入れるようにして、地域の皆さんは幅広い年齢層の方で対応いただいていますので、昔は一般的であった「男だから」「女だから」という概念では子供にとって、実は負担になってしまうこともあるということを少しでも御理解いただくために「多様な性」について当事者の方にお話しいただき、知っていただく機会を持つなど、できるだけ皆さんが意識を持っていただけるような内容をテーマとして取り上げ開催するようしております。

委員長

研修について事務局からありました。フレンドさんも世代交代が必要かというお話もありますが、青少年室としてはできるだけ関わっていただくボランティアのハードルを低くして誰でも見守っていただけるよう

にしていますが、見守る側にとっては人様のお子さんを見るのに心配があるとか、こういう時どうしたら良いのかという戸惑いもあるということで、リクエストいただいているものを毎年講習会として開催させていただいております。自由参加ですので来られない方もいらっしゃいますが、来られた方が地域に帰って返していただくという形で知識を広められたらと思っています。また、育成室の指導員さんも参加できるような形で実施しています。

先ほどから学校の協力が欠かせないものだというお話ですが、学校の先生も御出席されていますので、お話伺えたらと思います。ではAさんお願いします。

委員A

いつもお世話になっております。私は太陽の広場担当や育成室担当として経験させていただいたうえで、今年度から小学校に勤めています。

本校では現在、地域の方々にフレンドをしていただいております、子供たちのトラブルがあった時にはしっかりお話しいただいたりしています。

また育成室の指導員さんには太陽の広場で遊んでいる時に、太陽の広場、育成室の子供も含めて対応していただき、連携していただいております。それぞれ皆さんがすごく頑張っていると思いますので、子供たちが気持ちよく楽しく過ごせていると思います。皆が子供たちのことを思って動いていれば、問題もなくなると思いますし、青少年室の方々がうまくつないでいただいていると感じておりますので、この学校でもより連携できるようになれば良いなと思います。

委員長

ありがとうございます。Cさんお願いします。

委員C

私共は委託事業者が育成室を運営している学校ですが、遜色なく連携していただいておりますし、学校とのつながりもしっかり持っております。要望になるのかわかりませんが、ここ3~4年育成室の子供たちの人数が2,000人から4,000人に倍増しており、学校として一番危惧しているのは家に帰ってもだれもない5,6年生の数も倍増しているだろうということです。去年も育成室を卒業した子供の居場所が心配で、太陽の広場のニーズが高いのではと思っていて、開催回数を増やしたいのですが、回数が増やせない理由が人手不足で、ボランティアの人数が限られていて、今活動されている保護者の方々が固定化されていて、開催回数も増やせない現状があります。

以前は雨の日は中止だったのですが、本校では今年から雨の日も開催して、少しずつ回数は増やしていますが、限りがあります。これはやはりフレンドの確保ができないからです。晴れた日には子供たちは運動場の片隅にブルーシートを敷いて、日陰になっているところに丸いテーブルを出して宿題をする子供もいます。そこにかばんも置いたりして遊ぶ子供は運動場で遊んだり、宿題をしたい子供はテーブルでやっています。その状況を見ていて学校としては、太陽の広場の部屋を用意して雨の日は使えるようにしているのですが、晴れている日は使えていません。なぜかという子供が分散してしまうと見守りができなくて、決定的な人手不足で使えていないのが現状です。

他市ではアルバイトを雇ったりしているのではないかと思います。今は有償ボランティアとはいえ少額で見守ってもらっていて、例えば何らかの形で予算立てしていただければと思います。育成室の夏休みのアルバイトの賃金はフレンドの謝礼額より高いです。業務に違いはありますが、学生がアルバイトで行

っても良いかなと思えるくらいになることで、地域の方も増えたりしないかなと思ったりもしています。学生は不定期になるのでなかなか現実的には難しいとは思いますが、何らかの方法で検討いただくことで子供たちの居場所が増え、公園などではできないボール遊びができるのではと思っています。

開催を増やせたとして問題は暑い時の対策になると感じています。太陽の広場として青少年室が学校にひとつ部屋を確保すべきだと思います。ボランティアと部屋の確保ができることで子供たちに選択肢が増えたり、使いやすくなってニーズに合ってくるのではないかと思うことと、どのようにすればボランティアが増えるのかということを探っていただければと思います。

委員長

たくさん御意見いただき、ありがとうございました。

事務局

青山台小学校では2階にある教室を貸していただいています。子供たちが活動しているところには安全のために見守りの方に付いてもらっていますが、以前はもう少しフレンドさんもおられ、見守りの人数も確保できていたのですが、今は4人のフレンドさんで進めていただいている、貸していただいている教室からは運動場が見えないので晴れている日にそこを利用させていただくと、運動場の見守りが手薄になってしまうため、使用できていないのが現状です。予算の確保については、近隣と比べ吹田市のボランティア謝礼の額が特に少ないわけではないことと、この事業は国が仕事というより地域の方に主体的に活動してもらい、学校とも連携を図りながら進めてもらう事業だといっている点を考慮し、課題である人不足を解消できるよう検討させていただきたいと思います。

委員長

令和元年度のこどもプラザ実施状況を見ていただきますと、開催予定日数は1,944回ですが、実際できたのは1,250回です。この事業は、例えば不審者などの事案の発生や教室の確保の問題もあり雨天は中止しているところも多くあります。育成室の子供たちも増えていく中、太陽の広場も育成室も教室の確保が困難になっています。人材確保についても、どちらの地域も課題があるということですが、教育政策室では子供の数は今後どのように増えていく見通しですか。

委員R

先日出したパブリックコメントには、今後30年の児童・生徒数の推移が示されております。今年から第4次総合計画で人口推計なども示されていますが、過去10年間の転出入や出生率の状況を掛け合わせると、これから10年間は引き続いて伸びていくだろうということで、現在の児童数は20,700人ですが、24,000人ぐらいまで増加する見通しです。

教室についていえば、現時点で増築が確定しているのが千里第二と豊津第一、千里丘北、佐竹台小学校の4校ですが、来年度には確実に足りなくなるだろうという見通しで、江坂大池と山田第二小学校も育成課と協議しながら増築することになります。千里丘北小学校は現在の増築分では足りないので更に増築することになっています。

今後の転出入の状況によっては変わることもあり得ますが、さらに吹田南と片山、高野台、津雲台、古江台、藤白台の各小学校、場合によっては青山台小学校も教室が必要になってくるかもしれません。吹田市は転入が多く、30万平米以上の開発用地がありまして、全て住宅になると聞いているわけではあり

ませんが、ハードの整備が追いついていないという状況です。今は使っていただいている学校の部屋も、もしかすると返却していただくこともあるかもしれません。

委員長

現状、うまく運営できている部分が多いと捉えていたのですが、今のお話をうかがうと課題が大きすぎる状況ですね。全国で取り組みが広がっていない中で吹田市は進んではいますが、継続していくことが今後の課題だと思っています。ここで、PTAの方から太陽の広場の感想などあればお聞かせいただきたいのですが。

委員E

私の子供は4年生で育成室も利用しています。今度、卒室になるのですが、今までは育成室に通いながら太陽の広場の子供さんと遊んでいましたが、これからは太陽の広場に参加して育成室の子供たちと遊ぶという、これまでとは逆の状況になるのかと思いますが、週3回太陽の広場を行っていただいていることは非常にありがたくて、今後の放課後の過ごし方として、塾や習い事も含めてどうするか、保護者同士で話題になっています。転入が多いというお話ですが、転入してこられた方も、育成室に申し込みたいけれども待機が出て入れなさそうだと聞き、民間の学童も検討もするけれどよくわからなくて4月から1年生になるのに困っているという声も耳にしました。働く親が増えてニーズが高いというお話がありましたが、本当にそう思います。太陽の広場は学校によってそれぞれ開催曜日や開催回数も違いますので、毎日太陽の広場がある学校に通っていれば放課後の居場所があるけれども、そうでない時には困るだろうなと思いました。

委員長

育成室の求人をもPTA新聞に掲載していただく御協力もしていただいているとお聞きしています。

委員E

はい。新聞を発行させていただいて、指導員を募集しているということを掲載させていただいています。それくらいのことくらいしかできてはいないのですが。

委員Q

それだけひっ迫していて大変だということを知っていただく良い機会になったので、十分です。掲載していただきありがとうございます。

委員長

今の関連で、1中学校区に3小学校をお持ちの千里丘中学校区地域教育協議会の会長が来られていますので、御意見をお願いします。

委員F

その前に質問ですが、36校中、連携会議や避難訓練ができていない学校は何校あるのですか。

委員L

連携会議ができていない学校が1校、避難訓練ができていない学校が2校です。

委員F

まず連携会議ですが、小学校では学級王国という言葉があるくらい、担任の先生が1時間目から6時間目まで授業をし、給食から掃除まで全部一人関わっています。中学校ならば毎時間、各教科の先生が交代で見ているので、少しでも気になる子供の情報が入ります。ですから小学校は、太陽の広場や育成室から「あの子の様子がちよっと変わってきたよ」という情報が貴重です。いじめや虐待、自殺などの子供の命に係わることの未然防止に繋がると思うので、連携会議は早急に具現化してもらいたいと思います。避難訓練についても、学校の避難訓練でも練習していてもうまくいかないこともあります。まして放課後担任の引率もなく、いつどこで何があるのかわからない時に避難しなければならない状況になります。練習していなければ避難できません。池田の事件のように不審者が入ってきたら子供の命に係わる問題ですし、子供を少しでも守るためにも、2校の避難訓練を早急に具現していただきたいと思います。

2点目、教室の確保の件ですが千里丘中学校区の場合、山田第二も千里丘北も東山田小学校も児童数が大変多い状態で、更に増えることが予想されますので、授業で使う教室の確保も難しいと思います。さらにコンピュータ室、算数教室、英語教室などを普通教室から既に転用しているわけです。今からその教室を普通教室にすることはできません。学校としても教室確保が難しい中で、どのようにすれば太陽の広場と育成室と共存していけるのかを、なかなか難しいところはありますが、教室確保を何とかしていただければという思いがあります。

最後に、新しい指導員の方がなかなか定着しないということの理由の一つには、処遇があるのではないかと思います。大阪府の教員の給料が全国で下から数えて一桁というぐらいに減額された時期があり、その時、大阪府の小・中学校の教員採用試験の受験者が減り、倍率もとても下がりました。市の財政も豊かではないとは思いますが処遇は大切なので、少しでも改善されれば若い方やアルバイトの方にも定着してもらえないのではないかと思います。

また太陽の広場のフレンドについてですが、これはフレンドに限らずだとは思いますが年々高齢化が進み、新しい方が入ってこないということになっていると思います。これは全市的な課題だと思います。私が学校現場にいたときにも、なぜ保護者ではなく高齢者が見守らないとダメなのかという不平不満がありました。やはり子供たちのためにフレンドをしてくださりました。このまま変わらないでいると、どんどん高齢化が進み活動できないと思います。すぐに予算はつかないと思いますので、有償ボランティアの処遇改善についても、粘り強く、繰り返し要求をしていただきたいと思います。

委員長

いろいろ御意見いただきまして、すぐには対応できないこともありますが、参考にさせていただきます。Fさんがアンテナを張って連携会議をする必要があるとおっしゃいましたが、吹田市ではいじめについてもクローズアップされました。Sさんは連携についてどう思われますか。

委員S

先程、育成室の指導員さんから保護者のアンテナが非常に高くなっているというお話がありましたが、それは事実で6月の報道を受けまして、いじめ等の早期発見や解決について、またそのほかのことに関しても地域や保護者の方の知識が専門的になり、ひとつのけがやトラブルが訴訟に発展することが多々起きています。そんな中で、今月の吹田市報には、教育委員会と他の室課も含めまして「吹田 GRE・EN

スクールプロジェクト」として、市を挙げて、まずはいじめの防止に取り組んでいくということが載っておりますので、また御覧頂けたらと思います。

指導室としても、先生方にもう一度原点に戻って子供たちを見守る生徒指導の面と、日々の授業を開発する教育課程の面からのプログラムの再整理を行っています。現在作成中ですので、完成しましたら参考にしていただけるようにしたいと思っております。

様々な取り組みの中にもありますが、子供たちを見守る、そういった複数の目といいますか、市長も同様におっしゃっていることですが、それが非常に大切だと捉えています。なかなか一挙に人を増やすことは難しいですが、このような会議やいろいろな多方面から子供たちを見ていくということは、やはりすごくありがたいことだと思っております。教育委員会としても今やるべきことは何かということ、ひとつひとつ取り組んでいるところです。

太陽の広場や育成室では、異年齢の子供たちが一緒に過ごしていくその中で、子供たち自身がいろいろと折り合いをつけていく機会があり、これは今、非常に大事であるとされています。今日の会議もそうですが、まだまだ子供たちのために何かでいることはないか、より充実するようにと検討してそれぞれの連携を深めていただいていることは、本当に吹田の子供たちにとって幸せなことだと思っております。さまざまな課題が解決して、授業の時も放課後も子供たちが楽しく過ごせる場になるように私たちも願っています。以上です。

委員長

ありがとうございます。場所のお話もいろいろありましたが、太陽の広場は、吹田中の全ての子供の居場所ではなく、居場所のひとつという側面もあると思います。例えば児童館なども居場所のひとつだよというPRしたら良いのではないかと御意見もありますので、いかがでしょうか。

委員M

昨年7月に高城児童会館と寿町児童センターで、「まなび吹っち」を開催していただき、多くの子供たちが参加して大変好評だったと聞いております。吹田市内には児童会館、児童センターが11館ありますが、子供たちの放課後の居場所が足りないということが議論になっている中で、逆に来館者数は平成28年、29年をピークに若干減少傾向で、幼児の利用は増えていますが小学生の利用が減ってきている状況があります。児童会館、児童センターの存在がなかなか知られていないのではないかと感じております。いろいろな取り組みと今後も連携させていただき、是非利用していただけるよう取り組んでいきたいと思っております。

また、小学校高学年の居場所ですが、児童会館、児童センターでは高学年の利用が非常に多い館がありまして、そこで子供たち同士のトラブルも発生しています。厚生員と子供と話し合いその場で解決している事例がほとんどですが、中には保護者や学校に連絡する事例もあると聞いておりますので、引き続き関係するところと繋いだり連携していきたいと考えております。

委員長

ありがとうございます。児童会館、児童センターも子供たちの居場所のひとつでもありますので、私たちと一緒にPRしてできることはないか、検討していきたいと思っております。最後に事務局から何かありますか。

事務局

私から3点ございまして、まずお手元の教育コミュニティ「北東西南2019」を御覧ください。こちらは現在準備中のものですが、各地域で実施いただいている事業の御紹介や今年度、青少年室主催で開催いたしました、講習会の内容について掲載させていただいております。

今年度、第1回目の本会議にて開催後、御報告させていただくとお伝えしておりました太陽の広場見学会は、10月25日に開催させていただきました。残念ながら当日は雨天のため、運動場での遊びや通常の活動の全てを見ていただくことができなかったのですが、参加された皆様からは他校の状況を直接見学できて参考になった、など大変好意的な感想をいただきました。次年度以降もフレンドの皆様のお声をもとに見学会を計画して参ります。

また、裏面にあります「まなび吹っち」ですが、長期休業中に少しでも子供たちの居場所を提供することを目的とする、学びや体験の場として平成29年度から行っております。未来館をはじめ、子供たちが地域の中で通いやすい施設をお借りして、夏休みには児童会館や児童センター、今年度は初めて冬休みにも公民館を会場として開催しました。

宿題に取り組む子供たちの見守りを主に行っていますが、休憩時間には厚生員や地域のボランティアリーダーによるレクリエーションを行ったりしながら、子供たちとのコミュニケーションを図るなどしています。宿題への取り組み、レクリエーションでのメリハリによって、子供たちはとても集中して過ごしていたように感じます。学校からも自主学習の資料を提供いただくなど、子供たちに関わる皆様と連携を取らせていただき感謝しております。

次に青少年指導者講習会の御案内です。今回は3月5日に「子供の貧困を考える」という初めてのテーマで学習支援などにも携わるNPO法人 あつとすくーるの渡理事長にお話をいただきます。豊かな社会に見えますが貧困は意外と身近にあるということを、地域の皆様に御理解いただき心のサポートや温かく見守っていただけることで子供たちは成長することができる、是非そのような社会になることを願っているということがお話にあります。開催は夜になりますが、お時間があれば御参加いただければと思います。

最後に、フレンドの確保につきまして予算の件は、検討させていただくお時間を頂戴させていただきたいと思っております。

フレンドの確保につきましては、まずは太陽の広場という事業について地域やPTAの集まりの際に説明をする機会や、案内を配付するなどフレンドとしての活動への御協力に繋げていきたいと努力しているところです。2月17日の小学校新入学説明会の際にも資料として配付させていただく予定です。これは太陽の広場は放課後、学校の運動場や空き教室などをお借りして地域の方の御協力のもと、市が主催している事業であって、学校の事業ではないということを御理解いただき、参加へのマナーやルールなど御家庭で理解を深め、安全に参加してもらうためです。昨年度には台風、今年度は突然の雷の発生など自然現象によるものや不審者事案の発生もあり、そのような場合には安全の確保のため中止になることもあるので、対応をどうするかということを御家庭で決めておいていただきたいということなどの周知に努めています。

フレンドの確保が難しいところに関しては幼稚園に行かせていただき、次に1年生になる保護者の皆様にも同様に事業内容の説明や学校や友達関係も見ることができるので、良ければ月1回でも御参加いただけませんかとお声をかける取り組みをさせていただいております。大きな成果には繋がっていないのですが、理解は少しずつしていただけていると思っております。

また、青山台小学校区では、一昨年、古江台幼稚園で年長組保護者に向けて、太陽の広場の説明を

させていただき、新入生説明会にも行かせていただいて、数名の方がフレンドに興味を持っていただいたこともありました。できるだけ事業を理解していただいて、どうしたらフレンドとして活躍していただけるか各地域に沿った方法で進めさせていただきたいと思っておりますので、いつでも御連絡いただけたらと思います。私からは以上です。ありがとうございます。

委員長

最後に、何かお気づきの点や言い忘れたことなどがありましたらお話し下さい。

フレンドの確保の話ですが、東京では地域で生まれ育った人が少なくなっているため、業者に任せてやってもらっているようです。本市においては、太陽の広場や新・放課後子ども総合プランは、地域の大人のコミュニティを作るということも目的なので、全てを事業者に委ねてしまうのではなく、地域の方に御協力いただいて、その中で子供が育っていくことを大事にする方式で実施してきています。本日はいろいろな課題が浮き彫りになったと思います。いただいた御意見を参考にして、少しずつでも見直して良くしていきたいと思っております。本日は貴重な御意見をいただきありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

事務局

委員の皆様、本日は予定の時間を超えまして、真摯に御審議いただきましてありがとうございました。今後とも、新・放課後子ども総合プランのさらなる活性化に向けて、御支援・御協力をよろしく願いいたします。

尚、今回の会議につきましても議事録をホームページにアップいたしますとともに、関係の方々には「会議のまとめ」を作成し、お配りしたいと思います。これで閉会とさせていただきます。